

## アメリカ：どうしたら忠告を聞いてもらえるのか？

【訳者注】米政府とメディアが必死に維持しようとしている、正義のアメリカ、邪悪なプーチンという像も、これ以上は持ちこたえられないであろう。プロパガンダはある限度を越えれば、かえって逆効果となる。これは我々の一般的な体験である。「アレッポにおける“テロリスト”との戦いは、本当はシリアのアメリカ軍との戦いである。もはや誰も、この曖昧な“テロリスト”という言葉に騙される者はいない。」(p. 3) これは、まやかしの停戦後の、シリアでの米 - NATO による戦況拡大を伝える、本欄の記事を読んだだけでわかるだろう。好戦的なロシア、脅威のロシアという宣伝は、今後も続くと考えられる。それをどう受け止めるかは我々の知性による。

Christopher Black

May 12, 2016, NEO (New Eastern Outlook)



ソビエトと連合軍が 1945 年、ファシスト軍に勝利した祝日である 5 月 9 日、アメリカの雑誌 **National Security News** の発表した報告には、こう書かれていた——「東側（ロシアのこと）の脅威について言えば、EUCOM（米軍のヨーロッパ司令部）は、訓練から実戦のスタンスに移行するであろう。」

この論文は続けて言う、「これはアメリカが、ロシアとの戦争を計画しているということではない。単に、モスクワを抑えて、NATO やヨーロッパのパートナーを擁護し、ロシア大統領ウラジミール・プーチンがウクライナでやったようなことを、やらないように、武力構造をシフトさせるということである。」

もちろん、論文の著者たちは、ロシアが何を「ウクライナでやろうとした」かを、言わない。

それは、アメリカがキエフで傀儡政権を使って電撃的にやったことを、隠すための言い方だからである。この政権はさっそく東部ウクライナの住民を攻撃したが、それは彼らが、自分たちが民主的に選んだ大統領を退け、アメリカに援助された、彼らの文化を押しつぶそうとするクーデタを、受け入れようとしなかったからである。そして、アメリカ政府が「戦争を計画はしていない」と言うとき、我々には、それこそ彼らが計画しているものだとわかる。ウクライナやシリアの戦争、ユーゴスラビアやリビアの破壊は、ロシアに対する戦争の一部以外の何だろうか？

この論文は、次に、「アメリカとロシアの関係悪化」をあげ、モスクワがずっと「国際的空間で、アメリカの戦艦や飛行機に、攻撃的・好戦的な行動を取り続けている」と言っている。これもまた、「ロシアは、バルト海でも、ウクライナでも、シリアでもどこでも、我々の勝手を許してくれない」という意味で言っているのである。

それは、戦争の準備が続いていることを確認するもので、私はこれを前の論文で、NATOのヨーロッパ東部での力の蓄積を、1941年6月21日のナチスのソ連攻撃“バルバロッサ作戦”を準備するために、ドイツが力を蓄えていたのに比較した。その類似性は、月ごとにますます顕著になっている。ロシア政府は、何が起こっているのがよくわかっていて、アメリカの戦艦がバルト海に侵入して、カーニングレード、ペテルスブルグや、ロシアの大西洋への接近を脅かしているのを、しっかり監視することで応えている。ロシアはまた3つの新しい分遣隊を作り、その2つは、東ヨーロッパのNATO軍に対峙する西戦線に、1つは南の脇腹に置いている。

ごく最近、米政府は、在韓国のトップの將軍スキャパロッチェを、在欧米軍の司令官に据えた——あの好戦的なブリードラブ將軍に代えて。このすげ替えは単なる通常の配置転換ではない。ブリードラブは空軍の司令官だからである。スキャパロッチェは、ブリードラブよりもっと好戦的で、いくつかのアメリカの主権国家攻撃の経験をもつ、陸上戦闘司令官である。

彼の韓国での後釜ブルックス將軍もまた、陸上戦闘將軍で、イラク攻撃の陸上作戦の副司令官をしており、ユーゴスラビア、アフガニスタン、それにイラクやシリアなど、中東での“テロとの戦い”で、アメリカの侵略戦争にかかわった経験をもっている。これら2人とも実践の指導者であって、安楽椅子將軍ではない。彼らの任命は、米政府が、朝鮮半島とロシア国境で攻撃行動を準備していることを示唆する。実際、5月4日、彼がNATO軍のヨーロッパ司令官に着任した日、スキャパロッチェ將軍は、「NATOは、今夜にでも戦闘を始める出動態勢をとっておく必要がある」と言った。きな臭い発言である。

打ち続くアメリカの圧力に対抗するために、プーチン大統領は、5月9日月曜日、“地球的テロ”に対抗する、国際安全保障の非連合システムを作ることと呼び掛けた。彼がそういう言葉で何を言おうとしたのか不明である。どういう意味で非連合的なのか？ 非連合システムとはどんなものだろうか？

我々は、“非連合運動”というものが、すでに存在していることを忘れてはならない。1961年、ベオグラードにおいて、インドの首相ネル、インドネシアの大統領スカルノ、エジプトの首相ナセル、ガーナの大統領エンクルマ、それに、ユーゴスラビア大統領チトーによって、それが作られ、いわゆる冷戦における対立勢力間の一つの道を唱道した。フィーデル・カストロは1979年の演説で言った——非連合運動の狙いは、「国家の独立、主権、領土の保全、それに非同盟諸国の安全保障が、帝国主義、植民地主義、ネオ植民地主義、またあらゆる形の外国侵略、占領、支配、干渉に対し、また強い国家やブロックの政治に対して、確保されるようにすることだ。」注目すべきは、こうした目的は、ソ連の政策には完全に一致していたが、アメリカ帝国が達成しようとしていたすべて、つまり世界征服には、全面的に逆らうものだったことである。

ロシア政府は、それは、カストロの演説に表明されている目的を支持するものだと、繰り返し言明している。アメリカは、それは容認できないと繰り返し述べ、行動でそれを証明している。したがって、冷戦の終結によって方向性を失った“非連合運動”を復活させることは、プーチンの頭にあるもの、つまり軍事力をもつ非連合運動のための、重要な一歩になりうると思われる。この“非連合運動”は、現在、120か国を取り込んでいる。彼らは、共通の安全保障構築のために、ロシアに加わる用意があるだろうか？ それがプーチン大統領の頭にあるものだろうか？ 興味ある問いであり、興味ある可能性だ。しかし、これらの国家のリーダーたち（その他、誰でもよいが）は、大きな破局が起こる前に、何かをやるかとする意欲や意志や勇気をもっているだろうか？

プーチン大統領が、ある共通の安全保障イニシアティブ（率先行動）を、これらの国々と確立しようとしているのか、BRIC諸国だけを考えているのかはわからないが、共通のイデオロギーがなければ、これらの国家が一緒になれるとは考えられない。とは言っても、おそらく今日の状況で、共通のイデオロギーは必要なく、共通の恐怖だけで十分だろう。結果はどうかかわからない。プーチン大統領は非常に聡明だから、おそらく、これを押し進める何らかの具体案をもっているのだろう。我々はそれをひたすら望んでいる。というのも、彼が5月9日のスピーチで「テロリズムが地球的な脅威になった」と言ったとき、それは実は、アメリカが地球的な脅威になったという意味で、この考えは、彼と我々が共有するものである。

世界が直面している“テロリスト”が、アメリカの利益のために世界を不安定化しようとする、アメリカの代理武装集団であるのは明らかである。アレッポにおける“テロリスト”との戦いは、本当はシリアのアメリカ軍との戦いである。もはや誰も、この曖昧な“テロリスト”という言葉に騙される者はいない。これは、最近数週のアメリカ軍による、前進基地を作って更に大きなものを狙うシリア侵略によって、十分に明らかになった。プーチン大統領は現実には、演説の中で言っている——「新しい犯罪計画を抱いている者たちへの、ダブル・スタンダードや近視眼的な寛容は、受け入れられない。」この言葉は、NATO 同盟軍、特にアメリカに対するものでしかありえない。

“非連合安全保障システム”の創設への呼びかけは、また、国連と、その世界平和確保のための国際法の役割を、完全に無意味なものとして認めることと解釈することもできる。その無意味さは、年々、国際法の無意味さとともに増している。アメリカとその同盟国は、その両方を軽蔑的に扱っている。

今、新しい「バンドン会議」が必要とされている。これはインドネシアのバンドンで、1955年に開かれた、非連合運動より前の会議で、スカルノ大統領主宰によるアフリカ・アジア諸国の会議であった。メンバー国家は「世界平和と協力の推進についての宣言」を採択し、そこにはネールの 5 つの原則が含まれていた——領土保全と主権に対する相互の尊敬、相互不侵略、国内問題への相互不干渉、平等と相互利益、平和的共存。これらの原則は更新される必要があり、現実に照らしてみても、プーチン大統領が提案するように、国際的安全保障という共通のシステムによって具体化されなければならない。

ノーベル文学賞受賞者ハロルド・ピンターが、受賞スピーチでこう言っている——「アメリカは、国連、国際法、批判的な異論といったものを全く顧みず、そんなものは無力で無関係だと考えています。」彼は私にこう言ったことがある——「どうしたら、我々全部を殺す前に、彼らに忠告を聞いてもらえるのだろうか？」全くその通り、それが問題である。

(クリストファー・ブラックは、トロントに住む国際刑事法学者、アッパーカナダ法律家協会会員。人権や戦争犯罪に関する多数の有名な訴訟で知られ、特に、オンライン雑誌 New Eastern Outlook で知られている。<http://journal-neo.org/>)